

なぜビッグライトを使わなかったのか

はじめに

新型コロナウイルスの影響で本来なら今年公開されるはずであった「映画ドラえもん のび太の宇宙小戦争 2021」は来年春に公開されることになった。ドラえもんの映画が公開された1980年以降、ドラえもんの映画が1年間公開されないのはドラえもんの声優が交代した2005年以来であり、とても異例な事態であった。去年はコロナの脅威に悩まされつつも夏休みに公開されたため今年もそうなるだろうと置いていただけに非常に残念だった。この映画は、1985年に公開された「のび太の宇宙小戦争」のリメイクであるため今年も来年の映画をより楽しむためにリメイク前の作品を復習することにした。その時、ふと初めて読んだ時にこの作品に対して抱いた疑問を思い出した。それがこのタイトルに書かれている疑問である。こうした疑問をドラえもんに差しはさむことは野暮なのかもしれない。しかし、疑問に思ってしまったことについては考えたい私は、この問題についてもいろいろと可能性を考えてみた。

「のび太の宇宙小戦争」のあらすじ

特撮映画を撮っていたのび太たちの前にピリカ星から来た小さな宇宙人、パピが現れる。のび太たちは、最初こそパピの小ささに困惑したもののスモールライトで自分たちも同じ大きさになって遊ぶうちに打ち解けていく。ところが、突然ピリカ星から来た追手によってパピとスモールライトが奪われてしまう。のび太たちは、パピを救出するために小さなままピリカ星に乗り込むことを決意する。これが、本作品の簡単なあらすじである。スモールライトの後ろには解除光線がついており、スモールライトを奪われてしまったのび太たちは元の大きさに戻れないという状態に陥ってしまった。

私が中学生時代に初めてこの作品を読んだ時、ビッグライトを使えばいいのにと考えた。そして当時は、なんで使わなかったのかの理由が分からずこの作品についてあまりよい印象を抱いていなかった。そこで、今回は中学生の自分を説得するような気持ちでこの原稿を書いてみようと思った。今回の原稿では、3つの可能性について考えてみる。正直に言ってしまうと根本的な理由は以下の3つではないと思っている。私の考えでは、ビッグライトを使わなかった理由は、あっけなく話が終わってしまうと作品世界が台無しになるからであると考えられる。しかし、ここで原稿を終らせるわけにもいかない上、作品中ののび太たちに外の事情は関係ないという考えをもつ人もいるかもしれないのでここではあまり深く触れないことにする。

仮説その1 ビッグライトを使うことができなかったから

ビッグライトを使わなかった理由として、そもそもビッグライトを使えなかったという可能性が考えられる。では、なぜドラえもんはビッグライトを使うことができなかったのだろうか。

その理由の1つ目として、たまたまビッグライトが故障中であったという可能性が挙げられる。ドラえもんは、ひみつ道具の修理を自分で行っていることもあるが、手に負えないものについては修理に出すこともある。このようにビッグライトがたまたま故障していてドラえもん自身の手では直すことができなかったという可能性が考えられる。

2つ目の理由として、ドラえもんがビッグライトをレンタルしていなかった可能性が考えられる。「ドラえもん 最新ひみつ道具大事典」の前書きで作者は、ひみつ道具は高価であるためドラえもんは3分の2くらいをレンタルで済ませていると述べている。また、ドラえもんのひみつ道具は1回限りの使い捨てが多いということをドラえもん自身が言及しているエピソードもある(てんとう虫コミックス45巻「四次元くずかご」)。したがって、作品内でドラえもんはビッグライトを持っておらず使うことができなかったという可能性が考えられる。

仮説その2 ビッグライトを使うことを思いつかなかったから

次に、ビッグライトを使うことを思いつかなかった可能性について考えてみる。「のび太の宇宙漂流記」では、ひらりマントでは大きすぎるものは返せないというドラえもんの言葉に対し、のび太がビッグライトで大きくすればいいと返すシーンがあった。このようにドラえもんがビッグライトを使うことを思いつかない可能性は十分に考えられる。この他の映画でもドラえもんはひみつ道具を使うことをすぐに思い浮かばないシーンがあるためビッグライトを使うことを思いつかなかったとしても何も不思議はない。

しかし、全員がビッグライトを使うことを思いつかなかったというのは不自然であるかもしれない。ちなみにてんとう虫コミックスでの掲載順では、スモールライトの方がビッグライトよりも早い。スモールライトが登場してからビッグライトが登場するまでの間に宇宙小戦争の出来事が起こったと考えれば、ビッグライトを使うことを思いつかなかった(思いつけなかった)ことは十分考えられる。

仮説その3 スモールライトで小さくしたものはビッグライトで大きくできないから

最後に、スモールライトで小さくしたものはビッグライトで大きくできないという可能

性について検討してみたい。この仮説がもし成り立つ場合、その原因としてスモールライトで小さくしたものについては時間がくると元の大きさに戻る設定になっており、スモールライトで小さくしたものをビッグライトで大きくするとスモールライトの効き目が切れた際にもとの大きさよりももっと大きくなってしまおうという可能性が考えられる。

しかし、この仮説の可能性は限りなく低いと考えられる。「のび太の恐竜」では、ピー助を白亜紀に連れていく際にスモールライトでピー助を小さくし、白亜紀で元の大きさに戻している。元の大きさに戻す際に何を使っているのかについて明確な描写はなかったが、この際にビッグライトを用いていたとしたらこの仮説は成り立たないと考えられる。また、「のび太のひみつ道具博物館」ではガリバートンネルで小さくなったジャイアンとスネ夫がビッグライトを使って元の大きさに戻っている描写が見られる。そのため、ビッグライトとガリバートンネルの併用は可能であることから、スモールライトとビッグライトが併用できないことは明らかに不自然である。したがって、この説が成り立つ可能性は低いといえる。

おわりに

ここで挙げた理由は、あくまでも一部であり他にも様々な理由が考えられる。例えば、ビッグライトでは体をもとの大きさに戻すことができないことやパピを救うことを優先したなどの理由も考えられるだろう。この中から自分が納得いくものを選んでほしい。

今回の原稿は一部によって一部のドラえもんファンの夢を壊してしまったかもしれない。結局、ドラえもんという作品でさえ現実というものからは逃れることができないかもしれない。しかし、現実を踏まえつつも現実を変えてくれるかもしれないという希望をもたせてくれることがこの作品の魅力の1つかもしれないと思った。

来年こそはドラえもんの映画を楽しく見られることを1ファンとして祈っている。